

－ 急性・重症患者看護専門看護師の役割と活動 －

専門看護師とは、水準の高い看護を効率よく提供するための技術と知識を深め、卓越した看護を実践できると認められた看護師で、急性・重症患者看護専門看護師（CCNS：Critical Certified Nurse Specialist）は、緊急度や重症度の高い患者に対して集中的な看護を提供する役割があります。

私は看護師になり、ICUで勤務する中で、患者のさまざまなモニタリングの数値や身体所見からアセスメントを深め、声を発せない患者であってもその訴えに耳を傾けることを意識してきました。これらの臨床知を学問とつなげ、より高度な看護実践能力を身に付けたいと思い、大学院に進学しました。現在は東病棟2階ICUで勤務し、生後間もない新生児から後期高齢者まで幅広い層の患者に対し、最善の医療・看護が提供されるよう直接的または間接的に介入しケアを行っています。

大学院で学んだ後に現場に戻って感じるのは、クリティカルケア領域では倫理的課題が多くあるということです。スタッフからは、「患者に意識障害があるために家族が代理意思決定を迫られているがどう支援したらいいか」「患者の生命維持と回復を目指した高度医療すなわち生命維持装置を使用しているが現状に疑問を感じる」「重症患者のエンドオブライフケアは何ができるか」などのジレンマに関する相談を受けます。高度医療の発達とともに治療選択肢は増えていますが、患者の病態はより複雑化し、倫理的課題も複雑化しています。そんな時いつも意識するのは、結論が正しいかどうかではなく、結論を出すまでの過程が正しかったかどうか、そのプロセスを重視して解決方法を見出すことです。患者の今だけでなく、関わりの中で患者とその家族のライフヒストリーを追いかけて価値観に迫り、その人らしさとは何かを多職種カンファレンスや倫理カンファレンスで発信しています。患者および家族の最善の利益が何か問い直しながら倫理調整を行い、スタッフの倫理的ジレンマの解消に努めています。

一方で、ベッドコントロール上ICU退室を余儀なくされた患者の意思決定についてフォローできないことや、急変によりICUに入室した患者の緊急ACPにおいて推定意思の情報が十分でないなど、部署内の活動だけでは限界を感じるようになってきました。ICUを経由した患者の倫理的課題に対して、組織横断的に活動しながら問題解決を図るには、医療の多くの分野での倫理に関する知識獲得が必要と感じ、日本臨床倫理学会が主催する研修に参加するなど研さんを積んでいます。

また、2021年度より院内のCCNSでクリティカルケア看護領域の倫理検討プロジェクトの活動を行っています。CCNSが所属する部署で生じた倫理的課題について、さまざまな角度から方略を考え、実践につなげています。

CCNSとして、部署の倫理的課題の解決に留まらず、多くの患者とその家族のQOL向上のための活動の幅を広げていきたいと考えております。

